

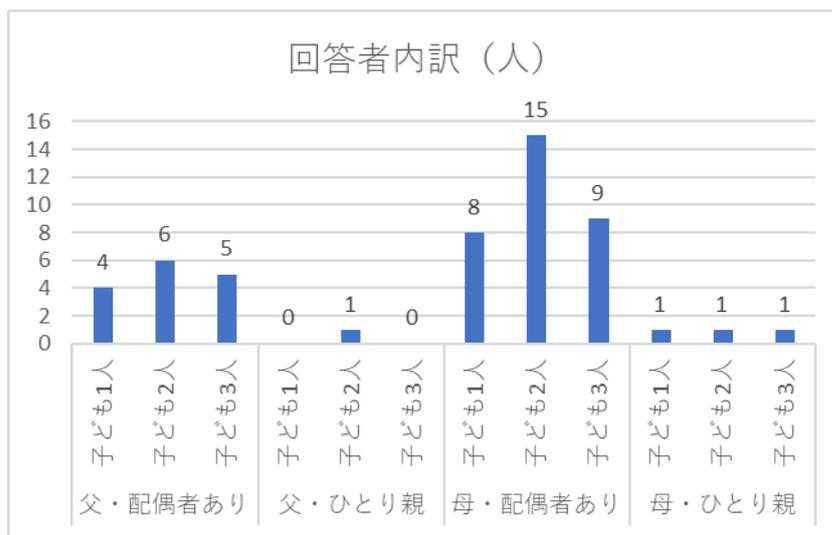
第3期三朝町子ども・子育て支援事業計画のためのアンケート調査結果(概要)

- 1 調査目的 第3期三朝町子ども・子育て支援事業計画の策定に向けて、「子ども・子育て支援事業の必要量の見込み」を算出するため、子育て世代の「現在の利用状況」や「今後の利用希望」を把握する
- 2 調査期間 令和6年3月18日から令和6年3月31日まで
- 3 調査対象 町内の小学4年生以下の児童がいる家庭（全229世帯）
- 4 調査方法 ①こども園及び保育園を經由して配布、その他は郵送により配布
②Google フォームによりインターネット回答
※質問は、全220問

5 調査結果 ①回答者 51人 (回答率22.3%)

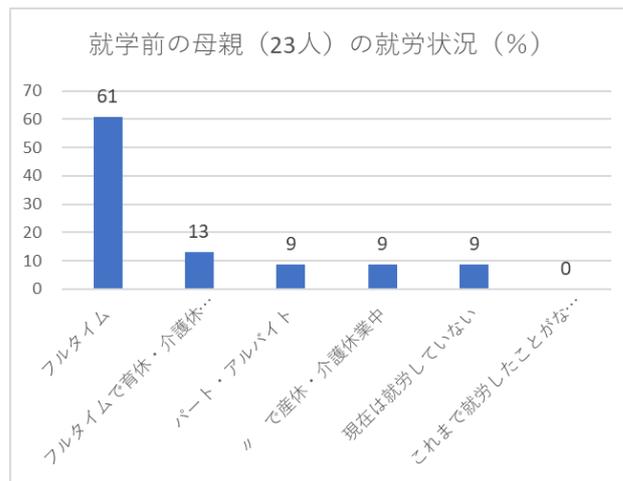
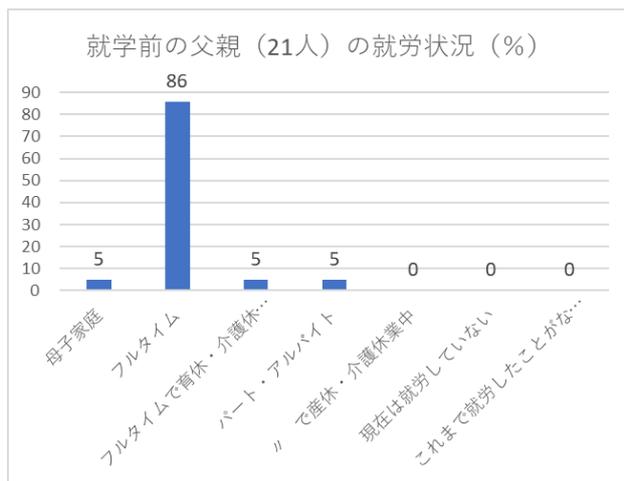
内訳	
父	16人
母	35人

②回答者詳細

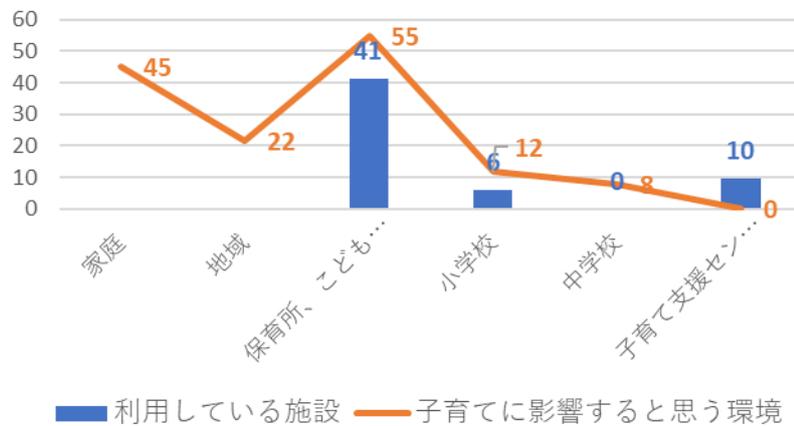


③回答者の子どもの就学の状況

小学校就学前の子どもがいる世帯	23世帯
// // いない世帯	28世帯



日常利用している施設と
子育てに影響を与えると思う環境 (%)

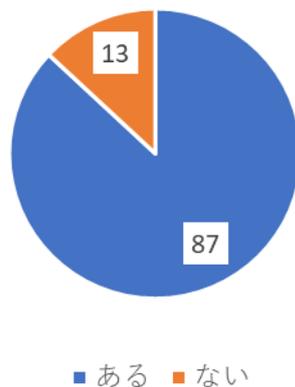


回答者全員(51人)に聞いた

『子育てに影響していると思う環境』は、「保育園、こども園、幼稚園」が55%、「家庭」が45%、「地域」が22%だった。

※複数回答

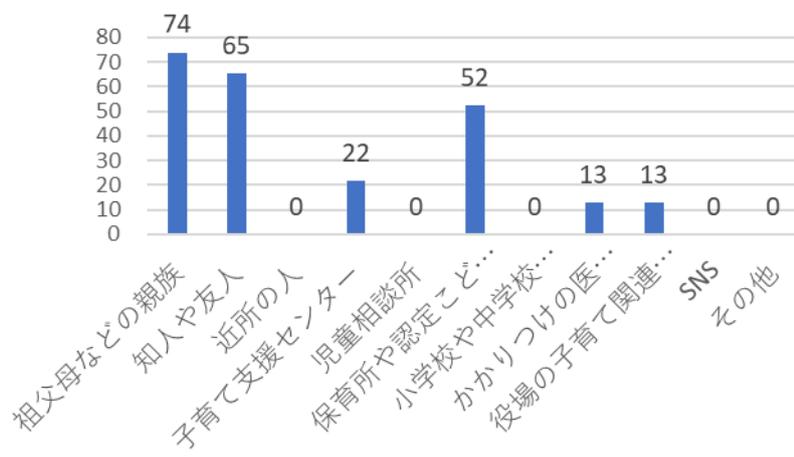
就学前の親
身近に相談できる人や場所の存在 (%)



就学前の親(23人)に聞いた

『身近に相談できる人や場所』については、「ある」が87%だった。

就学前の親
相談できる人・場所 (%)

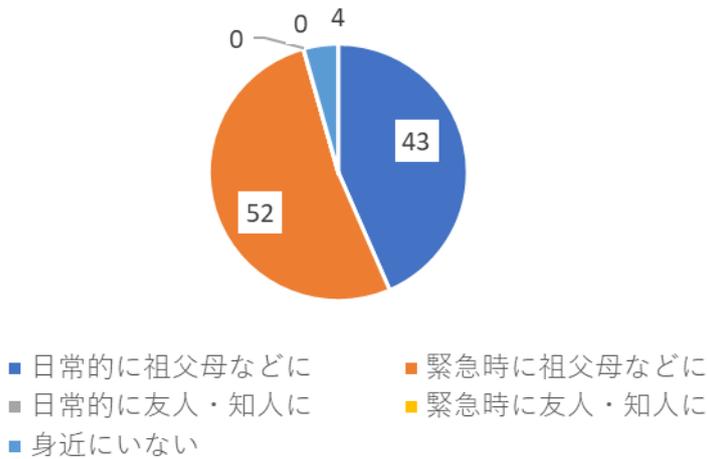


就学前の親(23人)に聞いた

『相談できる人・場所』は、「祖父母などの親族」が74%、「知人や友人」が65%、「保育所やこども園」が52%だった。

※複数回答

子どもを見てもらう現状 (%)



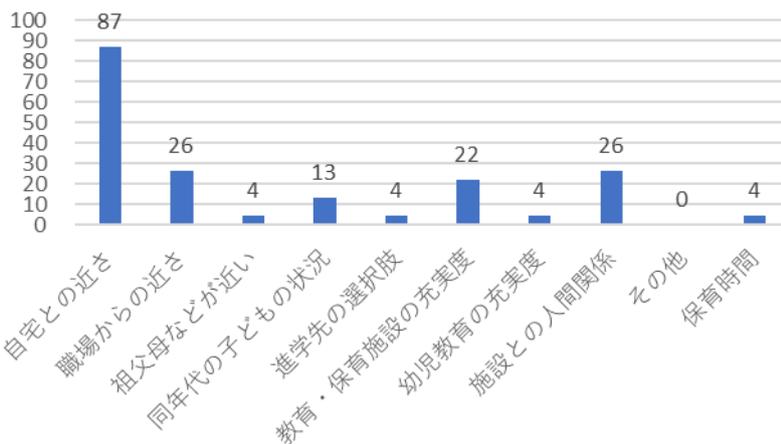
就学前の親(23人)に聞いた

『子どもを見てもらう現状』については、「日常的に祖父母などに」が43%、「緊急時に祖父母などに」が52%で、あわせて95%の人が、親族に見てもらっている。

「身近にいない」は、4%(1人)だった。

就学前の親

教育・保育事業を選ぶ理由 (%) ※3つまで



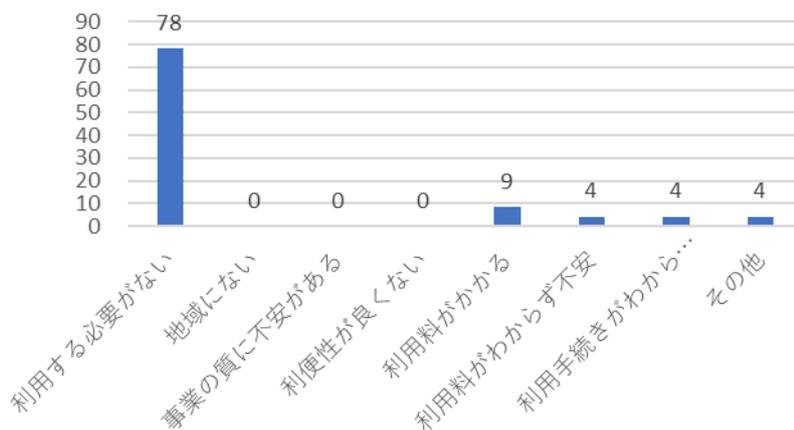
就学前の親(23人)に聞いた

『教育・保育施設を選ぶ理由』は、「自宅との近さ」が87%、「職場からの近さ」と「施設との人間関係」が共に26%だった。

※上位3つまで回答

就学前の親

一時預かり等を利用してない理由 (%)

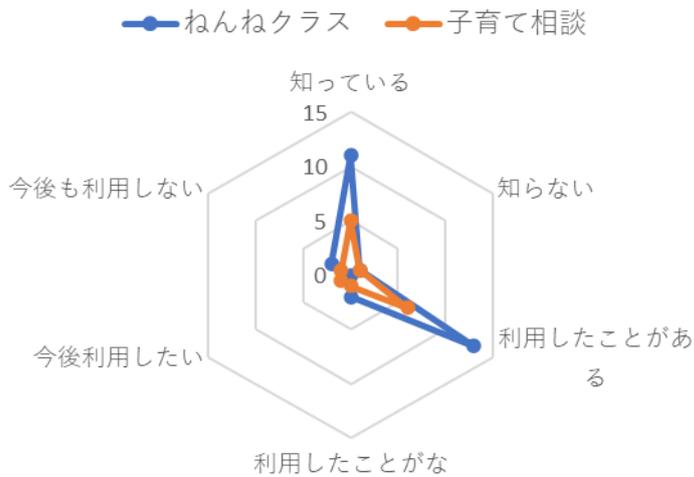


就学前の親(23人)に聞いた

『一時預かり、ファミリー・サポート・センターなどを利用しない理由』は、「利用する必要がない」が78%、「利用料がかかる」が9%だった。

※複数回答

母子保健事業の認識度（人）

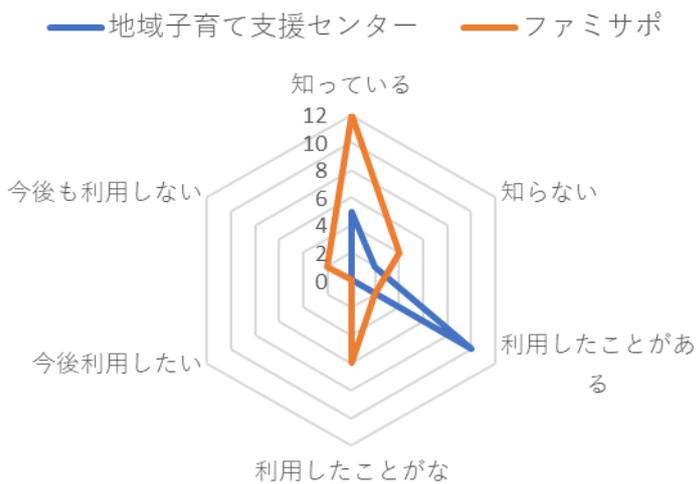


就学前の親(23人)に聞いた

『母子保健事業(ねんねクラス、子育て相談)の認識度』は、「知っており、利用したことがある」が多い。

※複数回答

子育て支援センター・ファミサポの認識度（人）



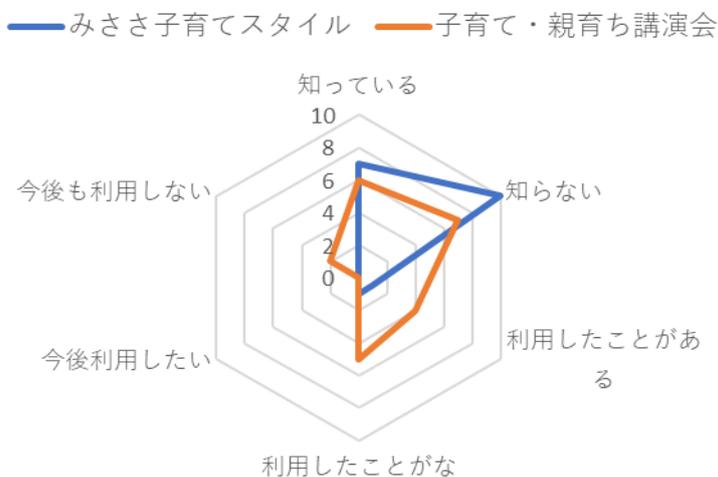
就学前の親(23人)に聞いた

『子育て支援センターの認識度』は、「知っており、利用したことがある」が多い。

『ファミリー・サポート・センター』は、「知っているが利用したことがない」が多い。

※複数回答

子育て情報誌、講演会の認識度（人）

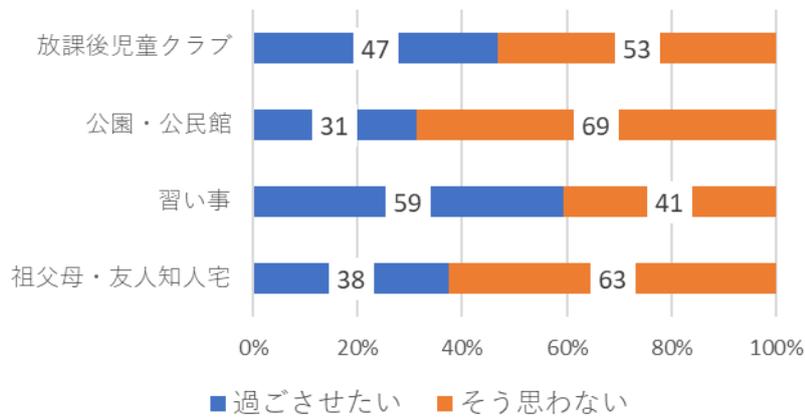


就学前の親(23人)に聞いた

『子育て情報誌(みさき子育てスタイル)、子育て・親育ち講演会』は、他の事業と比較して、「知らなく、利用したことがない」が多い。

※複数回答

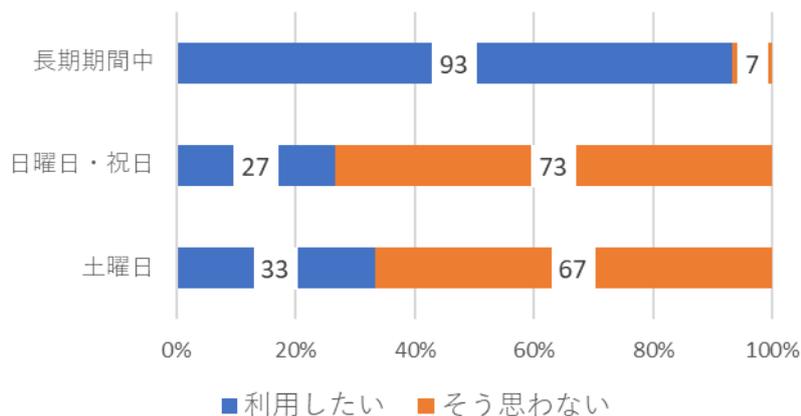
末子が5歳以上の親
小学生の時、過ごさせたい場所（％）



末子が5歳以上の親(32人)に聞いた

『小学生の時に、放課後を過ごさせたい場所』は、「習い事」が59%、「放課後児童クラブ」が47%が多かった。

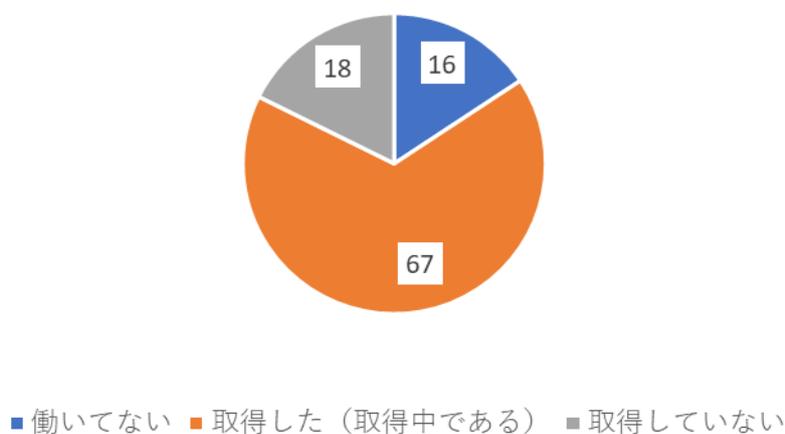
放課後児童クラブ利用希望者
休日、長期休暇中の利用希望（％）



放課後児童クラブ利用希望者(25人)に聞いた

放課後児童クラブの利用を希望する人のうち、『土・日・祝日や長期休暇中の利用希望』は、「長期休暇中」が93%、「土曜日」が33%、「日曜日・祝日」が27%だった。

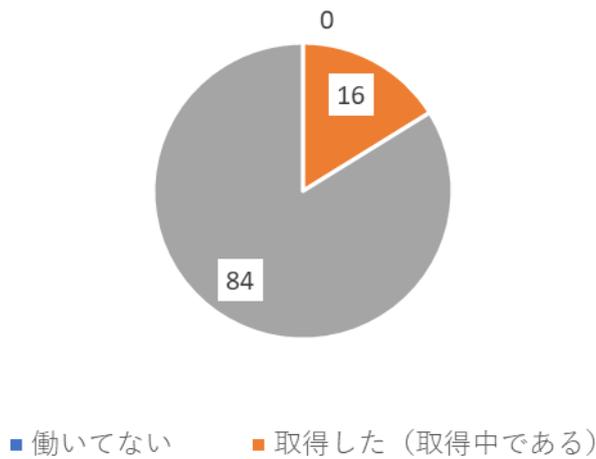
母親の育児休業取得の状況（％）



母親全員(34人)に聞いた

『母親の育児休業取得の状況』は、「取得した」が67%、「取得していない」が18%だった。

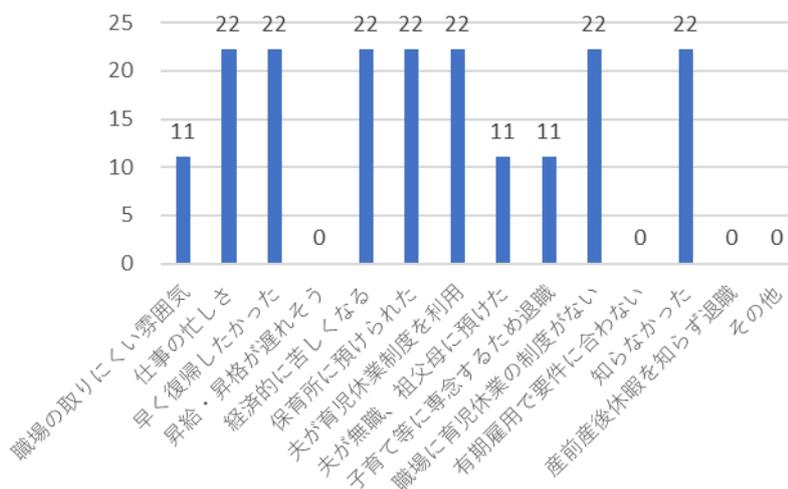
父親の育児休暇取得状況（％）



父親全員(31人)に聞いた

『父親の育児休業取得の状況』は、「取得した」が16%、「取得してない」が84%だった。

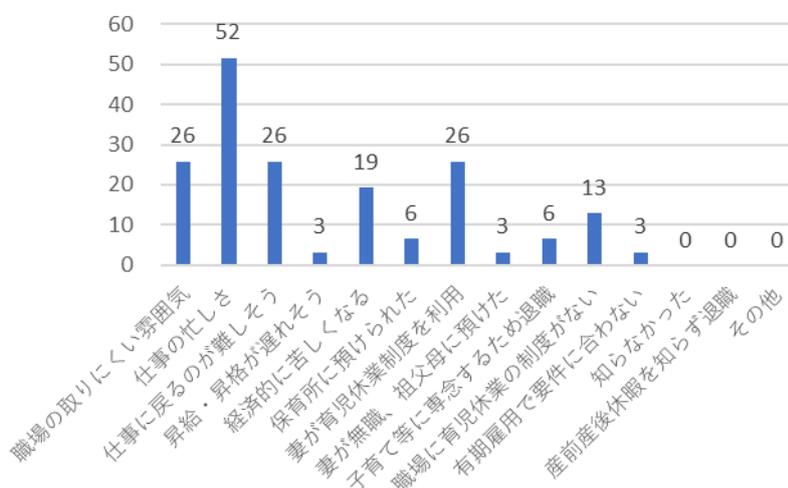
母親が育休を取得しなかった理由（％）



母親で育児休業をとらなかった人(9人)に聞いた

『母親が育児休業を取得しなかった理由』は、「仕事の事情、経済的な理由、夫の育児休業取得、勤務形態により制度がなかった」など、多様だった。

父親が育休を取得しなかった理由（％）



父親で育児休業をとらなかった人(26人)に聞いた

『父親が育児休業を取得しなかった理由』は、「職場や仕事の事情」によることが多かった。

6 考察・まとめ

- (1) 子育てに影響するのは、家庭よりも、預け先（保育園・小学校）と考える人が多かった。
しかし、家庭での子育てが子どもの成長の土台を作るので、家庭と教育・保育の両方が大切である。
- (2) 身近に相談できる人・場所がある人は87%で、その相談先は、祖父母、知人や友人、保育所やこども園、幼稚園が多い。祖父母などに子どもを見てもらえる人は95%だった。
子どもを見てくれる人がいるので、一時預かりやファミリーサポート等の利用は、一定程度に留まっており、サービスは充足している。
しかし、相談できる人がいない家庭や、子どもを見てもらえない家庭も1割程度いるので、孤立させないため、身近に関わる人の声掛けや気軽な相談窓口などが必要。
- (3) 小学生の子どもが、放課後や長期休業中に過ごす場所として、放課後児童クラブの需要が高い。土・日・祝日も3割程度の需要があるが、放課後児童クラブ以外にも、地域の居場所づくりとあわせて考えていく必要がある。
- (4) 就園前の母子保健事業や子育て支援事業は、認知度も利用率も高い。
- (5) 紙面による情報発信は、目に留まらなく波及効果が低いので、SNS等での発信を工夫する必要がある。また、親の学習の場も、方法を模索する必要がある。
- (6) 育児休業は、男性の取得が16%あり、今後も増えていくと思われる。育休を取りやすい雰囲気を社会全体として作っていくことが大切である。